

平成18年度

## 病害虫発生予察特殊報 第4号

平成18年12月19日  
茨城県病害虫防除所  
Tel : 029-227-2445

### インパチェンスネクロティックスポットウイルス (INSV) による マーガレット病害の発生について

病害虫名：インパチェンスネクロティックスポットウイルスによる病害

病原ウイルス：インパチェンスネクロティックスポットウイルス

*Impatiens necrotic spot virus* (INSV)

発生作物：マーガレット

#### 1. 発生確認の経過

- (1) 平成18年3月、河内町のマーガレットで、中位葉が黄化し、枯死する症状の株が発生した。被害株の症状からウイルス症状が疑われたため、農業総合センター園芸研究所でELISA法により検定したところ、本県では未発生のインパチェンスネクロティックスポットウイルス (*Impatiens necrotic spot virus* (INSV)) が検出された。
- (2) 本ウイルスは、平成2年にアメリカでインパチェンスにおいて最初に発生が確認された。国内においては、平成11年に静岡県で発生が確認され、平成18年11月28日現在、22都道県で確認されている。近県では、神奈川県(平成12年)、栃木県(平成13年)、千葉県(平成14年)、埼玉県(平成16年)、東京都(平成17年)等で発生が確認されている。

#### 2. 病徴

発病した株の主な病徴は、葉のえそ、黄化、モザイク等の症状であるが、同時に輪紋、斑点、茎条斑の症状を呈することが多い。

#### 3. 伝搬方法等

- (1) 本ウイルスは、ミカンキイロアザミウマおよびヒラズハナアザミウマにより伝搬されるが、特にミカンキイロアザミウマの伝搬能力が高い。これらのアザミウマは幼虫の時にのみ、本ウイルスを獲得し、保毒幼虫が成虫になってウイルスを媒介する。媒介虫は一旦ウイルスを保毒すると死亡するまで伝搬能力を保持するが、経卵伝染はしない。
- (2) 汁液接種による感染は容易に起こるが、接触伝染の可能性は低いとされている。また種子伝染、および土壌伝染については、現在のところ報告されていない。
- (3) 本ウイルスの宿主範囲は広く、シクラメン、インパチェンス、トルコギキョウなど花き類を中心に34科以上の植物で報告されている。

#### 4. 防除対策

- (1) 本ウイルスを媒介するアザミウマ類の防除を徹底する。なお青色粘着板を活用して、発生動向を把握し防除を行うと効果的である。(防除薬剤は表参照)
- (2) アザミウマ類の物理的防除対策として、施設の開口部に1mm目合い未満の防虫ネットの設置が侵入防止に有効である。
- (3) アザミウマ類の耕種的防除対策として、ハウス内及び周辺の除草を徹底する。また発病が見られる株は二次伝染源となるため、発見しだい圃場外に持ち出し土中深く埋める等、適切に処分する。
- (4) 手指やハサミ等による汁液伝染の可能性があるので、管理作業等は十分注意して行う。

表 花き類のミカンキイロアザミウマ，又はアザミウマ類に登録されている主な薬剤

(平成 18 年 12 月 1 日現在)

薬剤名	有効成分名	希釈倍数	使用時期	使用回数
アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム	1,000 倍	発生初期	6 回以内
オルトラン水和剤	アセフェート	1,000 倍 ～1,500 倍	発生初期	5 回以内
マラソン乳剤	マラソン	2,000 倍 ～3,000 倍	発生初期	6 回以内
アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩	2,000 倍	発生初期	5 回以内

※ 農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用基準，注意事項等を確認し，周辺作物への飛散（ドリフト）に十分注意して行ってください。



写真 1 葉の黄化症状（全体）



写真 2 葉の黄化症状（拡大）